

春 告 草

第 156 号 令和元年 10 月 16 日 進路指導部発行

秋から伸びる受験生はここが違う！

センター試験まで95日となった。現役生が力を伸ばしていくのは、教科書の内容が一通り終わったこれからだからだ。志望校合格に向けた本当の勝負が始まる。「現役生は最後まで伸びる」とは、よく言われていること。長年受験生の様子を見ているがそれは、正しい。「11月頃から、模試で問題が解けるようになってきた」という卒業生の話も聞いたことがあるが、とにかく「これから」なのである。しかし、一方で思うように実力を伸ばせず、苦悶する受験生もいた。実力を伸ばし、合格をつかむ受験生は何が違うのか。6年生の皆さんへはエールを送る気持ちを込め、学習行動や気持ちの持ち方などについて書いてみたいと思います。4年生、5年生も参考にしてください。



志望校合格を強く願い、「受かる勉強」をする

これからの時期に重要なのは、志望校に受かりたいという強い願望と「受かる勉強をする」ということ。勉強法が誤っていれば、どんなに頑張っても、時間や労力に見合った成果を得られず、「受かる勉強」をした受験生には勝てない。情報を集め、試行錯誤しながら自分に最適な方法を見出してほしい。こうした経験は、受験後も無駄にはならない。勉強法をはじめ、受験を通して身につけたスキルは、社会に出てからも必ず役に立つ。

(右へ続く)

センター試験出願状況



今回が最後の実施となる次年度センター試験への出願状況が大学入試センターから発表されている。

出願数は締切日の10月10日17時現在の値で、確定出願数は締切日消印のものを加え、さらに重複出願等の確認を行い、12月上旬に発表される。

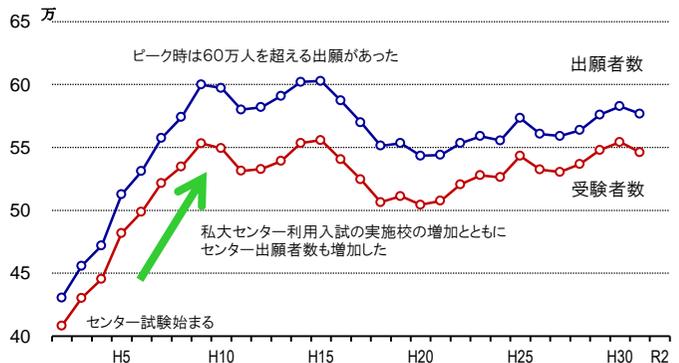
11年間続いた共通一次試験の後にセンター試験が始まったのは、平成2年度入試。最初の受験者数は40万人程度だったが、私立大の参加と共に出願者数は増加し、ピーク時には60万人を超えた。最近では57~8万人程の出願があり、現役生の出願率は45%程度である。出願者全体に占める既卒生の割合は2割を切っていて、現役生主導の入試が続いている。こういった状況の中で、志望校に合格するためには、最後まで諦めずに、頑張り切ることだろう。力が付いてくるのはこれからだ。

令和2年度大学入試センター試験出願状況

	令和2年度	平成31年度
出願総数	530,917	537,008
高等学校等卒業見込み者	441,020	444,953
高等学校等卒業生	89,897	92,055
確定出願数	—	576,829

(令和元年10月10日現在、平成31年度は昨年同時期の数値)

センター試験出願者数・受験者数推移



その1 やるべき勉強を自分で考える

これからの時期は、自分の志望校や自分自身の状況に合わせた戦略的な学習が必要になる。授業や放課後講習では担当の先生がポイントを押さえた講義を行っているが、これを自分の学力状況に合わせてアレンジすることが必要だ。自分の弱点部分であれば、授業・講習以外に不足を補う学習活動が必要になるし、逆の場合には、より発展的な内容にチャレンジしていく積極的な姿勢が求められる。受け身の学習から脱却し、志望校や現状に合わせた独自の学習プランを立て、戦略的な学習をしなければいけない。

その2 苦手なタイプを分析し、伸びる部分を優先する

「苦手科目は伸びしろがある分、得点の伸びも大きい」は決して間違っていないが、時と状況によって使い分けるべきである。まず、センターまで95日となった6年生には、時間が限られている。苦手についても、勉強が遅れているからなのか、勉強してきたのに苦手なのかの見極めが必要だ。前者は勉強すれば伸びる余地はあるが、後者は今後急にできるようになるとは考えにくく、力を入れてもそれに見合った成果は期待できない。勿論、苦手科目を放置しておけばよいということではなく、深追いは危険だということ。合否は総合点で決まるのだ。慶應義塾大の今年度入試結果を右表にまとめたが、合格最低点は6割前後となっている。どうやって合格ラインに届くのか、バランスを考えて対策を考えよう。

その3 模試の失点を分析し、受験対策に役立てる

模試を弱点の発見に活用するのは当然だが、単に「間違えた問題＝弱点」で終わらせず、失点・減点をさらに細かく分析している受験生は伸びる。失点や減点は、大きく3つに分類できる。一つ目は勉強不足でできなかった問題。これは、今すぐやるしかない。「いつやるか？今でしょ！」なのだ。二つ目は、勉強したのにミスをしてしまった問題。これはミスの原因を分析し、同じミスを繰り返さないように対策をしよう。三つ目は、勉強したのにわからなかった問題。これは考えどころだ。原因を明確にできれば対策を考えるが、解説を読んでも理解できないのなら、あきらめるのも手だ。入試で満点をとる必要はないのだから。先にも述べたが、深追いは危険である。

その4 本番のリハーサルとシミュレーションを十分にやっている

「本番に強い」といわれる人に共通しているのが、事前に本番のリハーサルとシミュレーションを徹底的に行っていること。リハーサルの主な場は模試である。例えば、設問を先に読んでいた方が良いのか、どのくらいの速度で読めば時間内に解ききれぬか、大問ごとの解答順序はどれくらいがベストか、最も効率よく解ける解答手順・方法をいろいろと試してみよう。記述問題であれば、どのくらいのボリュームで書けば、規定の字数の範囲に収まるのかの感覚も本番では生きてくる。これからの時期は、普段から「時間内に得点をとる」という意識をもって問題を解くことが重要だ。そして、リハーサルで得た経験を活かし、過去問を使って試験本番のシミュレーションを行い、最善の解答作業の流れを完成させよう。早慶模試など大学別の模試は、出題形式、解答用紙などが本物を真似て作られているので、貴重な「実戦練習」となる。センタープレテストは期末試験直前の実施になるが、本番を想定して受験することが、試験当日のゆとりにつながるはずである。

その5 規則正しく生活できている

実力アップの大前提となるのが、受験生として適切な生活習慣が確立できていること。基本となる早寝・早起きはもちろんのこと、食事も重要である。脳は1日の消費カロリーの約20%を消費すると言われていて、相応な食いしん坊だ。脳の働きを良くするためにも、過度な食事制限やダイエットは絶対に止めよう。特に朝は下がった血糖値を上げる必要があるため、朝食は欠かさず食べよう。前号にも書いた「セロトニン」は精神的

慶應義塾大学合格ライン

学部学科	最低点	満点
文(一般入試)	233	350
経済(A方式)	265	420
経済(B方式)	259	420
法(一般入試)		
法律	227	400
政治	224	400
商(A方式)	258	400
商(B方式)	288	400
医(一般入試)		
(1次試験)	303	500
理工(一般入試)	280	500
看護医療(一般入試)		
(1次試験)	273	500
総合政策	261	400
環境情報	250	400
薬(一般入試)		
薬	208	350
薬科学	207	350

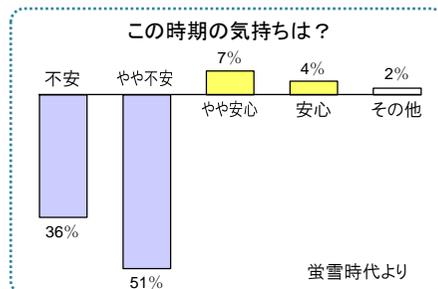
問題の難易レベルにもよるが、大雑把な言い方をすれば大体6割前後が合格ラインとなる。今年度の慶應は商学部B方式が72%で最高。逆に法、理工、看護医療、薬の各学部は50%台だった。

な安定を促す効果があるので、このために必要な蛋白質を摂ることも大切である。セロトニンが増えると、睡眠ホルモンの「メラトニン」も多く分泌され、快適な睡眠も保障されるので、相乗効果もある。毎日同じリズムで生活して身体に覚えさせることで、勉強に最適なコンディションを整えることができる。早寝・早起き・朝ごはん、脳に良い生活を確立して、学力が伸びる土台を作るべし！

※セロトニンを増やすには→https://www.human-sb.com/serotonin/increase_serotonin.html

その6 不安な気持ちは勉強の原動力に転化する

この時期は、受験生なら誰でも不安を感じているもの。「落ちたらどうしよう」という不安と「受かりたい」という欲望は表裏一体であり、「受かりたい＝勉強しよう」とポジティブな方向に持っていける人が、いわゆる「メンタルが強い」人なのだ。一方、「この大学に落ちたら終わりだ」などと視野が狭くなったり、睡眠時間や前述のセロトニンが不足したりすると、不安を感じやすくなる。いつもより不安を感じる時には、よく寝て、食事で蛋白質を摂り、「人生には様々な道があり、第1志望校に行くことだけが道じゃない。受験勉強は決してムダにはならない」と、頑なになった気持ちを緩めよう。時として開き直りも必要だ。不安なのは自分だけではないことを知ろう。



その7 最後までクラスの一員としての自覚を持っている

6年間一緒に生活してきた三鷹の友達、一緒に受験の荒波を突き進む仲間である。勿論、時として競争相手にはなるが、蹴落とす相手ではなく、一緒にゴールテープを切る仲間でありたい。自分一人では、もうとっくにエネルギー切れしていたこともあっただろう。一緒に頑張ってきた仲間がいたからこそ、ここまでやってこられたのだ。行事は終わってしまったが、教室を一緒に掃除するくらいの気持ちの余裕は持っていたいもの。解けない問題があったなら、互いに教えあってみよう。教えることで、自分の理解も深めることができる。受験は団体戦である。



早大9割超え MARCH8割後半 私立大センター利用入試の合格ライン

今年のセンター試験への現役生徒の出願率は全国で44.0%、東京都では57.0%に達し、既卒者と合わせて約58万人が受験した。文部科学省からは、同年の国公立大学前期試験への志願者合計数は約26万人（募集数は前期日程合計で約8万人）と発表されているので、センター志願者の半数以上は私大センター利用入試の受験が目的ということになる。大学によっては、一般入試に出願すると、同一学部・学科のセンター利用入試の受験料が割引、もしくは無料となる制度もあって、私大センター利用入試に出願する人は多い。

一口にセンター利用といっても、センター試験の成績だけで合否が判定される「センター利用方式」と大学独自の試験が課される「センター併用方式」の2タイプがあるが、個別試験対策の手間を考えれば受験生にとっては有難い入試システムである。センター試験1回の受験で複数の大学・学部に出願でき、過密にならないよう受験日程を調整することもできるので、利用するメリットは大いにある。

そんなわけで募集人員が少ないにも関わらず、私大センター利用試験の志願者は多い。今年度入試では、青学・経済・現代経済デザインは10人募集のところに、1345名の志願者が集まった。志願倍率はなんと135倍で、普通なら「とても受かる気がしない」が、合格者75人を出し、この内4名が入学した。

募集人員よりも多く合格を出すのは、他大学への入学を見込んでのことだ。その大学より上位の大学を第一志望とする受験生が「押さえ」で受験し、合格しても入学を辞退するケースは多い。したがって、合格ラインは一般入試に比べて高く、早稲田は9割以上、MARCHで8割後半が必要だという。センター利用入試の合格最低点を公表している大学は少ないが、青山学院大、東洋大のデータがあったので掲載する。言うまでもないと思うが、利用している科目がそれぞれ異なるので、両大学を単純に比較することはできない。

青山学院大学センター利用入試結果

学部	学科	募集人員	志願者数	合格者数	倍率	合格最低点
文	英米文	5	415	18	22.9	467/500
	フランス文	5	360	50	7.2	446/500
	日本文	5	269	59	4.5	531/600
	史	5	462	110	4.2	529/600
	比較芸術	5	319	40	8.0	540/600
教育人間	教育	10	849	91	9.3	446/500
	心理	8	548	51	10.7	404/450
経済	経済	10	886	157	4.0	430/500
	現代経済学Ⅰ(3教科)	5	761	34	18.8	356/400
	現代経済学Ⅱ(4教科)	5	584	41	14.2	443/500
法	法	20	889	203	4.4	307/350
	経営(3教科型)	7	596	59	10.0	495/550
経営	経営(4教科型)	3	201	41	4.9	569/650
	マーケティング(3教科)	3	266	30	8.8	495/550
	マーケティング(4教科)	2	48	13	3.7	570/650
	国際政治(3教科)	10	686	103	6.6	368/400
	国際政治(4教科)	10	170	52	3.3	526/600
国際政治経済	国際経済(3教科)	10	802	76	10.5	364/400
	国際経済(4教科)	10	471	78	6.0	529/600
	国際コミュニケーション	10	366	36	10.1	368/400
	総合文化政策(3教科)	7	392	49	8.0	450/500
総合文化政策	総合文化政策(4教科)	3	46	9	5.0	531/600
	物理・数理	10	681	177	3.8	486/600
理工	化学・生命科	10	293	40	7.3	525/600
	電気電子工	10	266	59	4.4	412/500
	機械創造工	10	450	96	4.7	508/600
	経営システム工	10	323	32	10.0	443/500
	情報テクノロジー	10	481	41	11.7	441/500
	社会情報	20	556	45	12.3	267.5/300
地球社会共生	地球社会共生	10	681	59	11.5	408/450

東洋大学センター利用入試結果

学部	学科	募集人員	志願者数	合格者数	倍率	合格最低% (得点率)
文	哲学	9	357	64	5.6	(81.9)
	東洋思想文化	17	365	125	2.9	(77.5)
	日本文学文化	15	407	84	4.8	(82.9)
	英米文	20	510	145	3.5	(80.0)
	史学	13	534	135	4.0	(82.0)
	教育(人間発達)	15	257	87	3.0	(77.4)
	教育(初等教育)	10	194	39	5.0	(81.5)
	国際化コミュニケーション	15	343	60	5.7	(82.5)
	経済	25	1221	122	10.0	(84.3)
	国際経済	20	543	80	6.8	(83.5)
経営	総合政策	16	585	90	6.5	(80.9)
	経営	45	2226	251	8.9	(84.5)
	マーケティング	25	1165	131	8.9	(83.3)
法	会計ファイナンス	20	787	152	5.2	(81.1)
	法律	40	1100	194	5.7	(83.3)
社会	企業法	40	1002	185	5.4	(82.1)
	社会	15	1345	176	7.6	(84.1)
国際	社会文化システム	15	401	102	3.9	(81.7)
	社会福祉	15	464	87	5.3	(81.3)
	メディアコミュニケーション	16	733	108	7.1	(83.9)
	社会心理	15	854	108	7.9	(83.9)
国際	グローバル・イノベーション	19	402	76	5.3	(88.3)
	国際地域	45	579	153	3.8	(82.0)
国際観光	国際観光	50	968	132	7.3	(83.9)
	情報連携	情報連携(文系)	70	581	68	8.5
情報連携(理系)		579		122	4.7	(66.7)
ライフデザイン	生活支援(生活支援学)	8	447	101	4.4	(76.7)
	生活支援(子ども支援学)	10	288	68	4.2	(75.8)
	健康スポーツ	15	711	105	6.8	(79.5)
	人間環境デザイン	20	570	85	6.7	(79.5)

最も標準的な3教科型のみを掲載した

理工学部、総合情報科学部(川越キャンパス)、生命科学部、食環境科学部(板倉キャンパス)は遠方のため省略した



ロボット製作教室受講生を募集

電気通信大学では高大接続プロジェクトとして「ロボット製作教室(入門編)2019」の受講生を募集している。センサー、ロボットカー(マイコン、モータ)、パソコンを使って、ロボットのデザインとプログラミングを体験・学習するというもので、開講日などは下記のとおり。

開講日 第1回 11月9日(土)、第2回 11月16日(土)、第3回 11月30日(土)

時間 各回とも 13時30分～16時30分

場所 電気通信大学調布キャンパス

参加費 一人1000円

参加定員 各回5組(2名1組)

担当 電気通信大学 金森哉史准教授

内容 ロボットプログラミング学習キット『ArtecRobo 2.0』を用いてロボットの基礎を学習し、設計や製作、制御を行う。

機材などは大学で用意する。製作したロボットの持ち帰りはできないが、作成したプログラム持ち帰りは可。

申込み メールで先着順受け付け中

タイトルを【申込】ロボット製作教室とし、「・代表者氏名、学年、学校名 ・ペアを組む人の氏名と学年 ・参加希望日(第2希望まで)」を記載する。宛先 kanamori@mce.uec.ac.jp

